

プログラム

第1会場

3月9日（土）

特別講演

9:00~10:00

座長：野中 信宏（愛野記念病院）

ハンドセラピー技術の探究と発展

－中枢神経障害に対するハンドセラピー技術の応用－

中部大学 岡野 昭夫 先生

教育講演 I

10:10~11:10

座長：壺岐尾 優太（日本赤十字社長崎原爆病院）

作業療法士として、どう高次脳機能障害に向き合うべきか

－症例検討の重要性：目の前の患者が教科書である－

長崎北病院 山田 麻和 先生

テーマシンポジウム I 「精神科急性期」

11:20~12:30

司会：杉村 彰悟（小鳥居諫早病院）

あきやま病院における急性期治療病棟の依存症支援

あきやま病院 前田 大輝

統合失調症への心理教育

光仁会病院 林田 浩司

不眠症に対する認知行動療法

小鳥居諫早病院 杉村 彰悟

教育講演 II

13:30~14:30

座長：森内 剛史（長崎大学）

作業療法士の役割と使命：社会から必要とされる存在としての挑戦と成長

長崎大学病院 光 永 濟 先生

テーマシンポジウム II 「脳血管障害」

14:40~15:50

司会：山田 麻和（長崎北病院）

失語症患者に対する自動車運転再開支援の経験

佐賀リハビリテーション病院 佐古 英樹

脳血管障害患者に対する作業療法で私が大切にしていること

－これまでを知り、より豊かな未来を共創する－

新吉塚病院 リハビリテーション科 劉 濤

クロスジョブ福岡の就労移行支援について －私が就労支援をしたいと思ったきっかけ－

クロスジョブ福岡 萩原 敦

優秀演題

16:00~16:40

座長：久保田 智博（長崎労災病院）

<若手優秀演題>

shared decision-making による目標動作の設定が日常生活における

麻痺側上肢の使用頻度の向上につながった脳卒中の一例

長崎記念病院 池田 葵

化粧動作をきっかけに麻痺側上肢使用頻度向上を目指した介入

－再び趣味活動を行うために－

長崎北病院 森山 七海

<最優秀演題>

VRPA システムを用いた左半側空間無視患者に対する新たな急性期作業療法の試み

長崎大学病院 光 永 済

3月10日（日）

特別企画 離島シンポジウム 「離島作業療法の現状と発展」

9:00~10:00

司会：藤原 謙吾（長崎リハビリテーション病院）

長崎県離島地域における作業療法の現状と課題

長崎県対馬病院 篠田 真

長崎県五島中央病院 栗明 正実

長崎県上五島病院 田邊 陽子

壱岐特別養護老人ホーム光の苑 遠藤 信子

奄美大島における作業療法の現状と今後について

Mellow Amami 合同会社 平城 修吾

テーマシンポジウム III 「摂食嚥下」

10:10~11:20

司会：秋山 謙太（愛野記念病院）

急性期病院における摂食嚥下障害に対する作業療法士としての役割

長崎労災病院 中央リハビリテーション部 尾坂 愛菜

当回復期リハビリテーション病棟における「食べる」支援の取り組み

長崎リハビリテーション病院 本田 秀明

超高齢者の生活を見据えた食支援の在り方

愛野記念病院 リハビリテーション科 中村 恭平

テーマシンポジウム IV 「特別支援教育」

11:30~12:40

司会：原田 洋平（長崎子ども・女性・障害者支援センター）

福祉領域における作業療法士のあり方と地域支援

ふわり諫早 前田 航大

医療機関における小児作業療法士の役割と参加の支援について

長崎市障害福祉センター 岩永 裕人

外からみた小児作業療法士に必要なことと課題

長崎大学医学部保健学科 徳永 瑛子

第2会場

3月9日（土）

一般演題 I 「運動器疾患 1」

11:20~12:00

座長：千北 晃（愛健医院）

I-1 自己効力感に着目し洗濯物取り込み動作を再獲得した一例

長崎北病院 リハビリテーション科 金崎 遥翔

I-2 「また料理ができると思えました」 -THA 術後患者に対する日誌を用いた介入-

長崎北病院 田淵 慎吾

I-3 人工股関節全置換術後患者の家庭菜園での「草取り」動作獲得に向けた支援

耀光リハビリテーション病院 矢城 輝一

I-4 家族と一緒に墓参りに行きたい -ADOC で目標が明確になり歩行耐久性が改善した症例-

長崎北病院 土屋 未来

一般演題 II 「運動器疾患 2」

12:00~12:30

座長：岩永 祐一（愛野記念病院）

- II-1 橈骨遠位端骨折患者に介入初日より自主訓練プログラムを行った一例
－早期仕事復帰に向けて－
公立小浜温泉病院 渡部 総士
- II-2 疼痛による復職不安を抱えた事例への支援
松岡病院 林田 健
- II-3 手指切断外国人患者に対する急性期作業療法 －言語の壁を越えて－
長崎大学病院 沖田 隼斗

一般演題 III 「地域」

14:40~15:20

座長：村木 敏子（大村市地域包括支援センター）

- III-1 当センターでのひきこもり家族教室開始時の日本版 GHQ30 のスコアの特徴について
－総得点のカットオフ値による要素スケールの違いについて－
長崎子ども・女性・障害者支援センター 原田 洋平
- III-2 家から出たい、いつか就労をしたい
－精神科デイケアにおける約20年間のひきこもり支援の一例－
愛野ありあけ病院 坪田 優一
- III-3 COVID-19 禍における回復期リハ病棟自宅退院患者の退院後 ADL の変化
耀光リハビリテーション病院 森山 悠平
- III-4 圧迫骨折後、在宅復帰をした症例に対する通所リハビリテーションでの関わり
－不安を抱える症例に対する自立支援に至るまでの経過と考察－
菅整形外科病院 通所リハビリテーション「菅整形」 谷口 友仁

一般演題 IV 「高齢期」

15:20~15:50

座長：田邊 陽子（長崎県上五島病院）

- IV-1 肺非結核性抗酸菌症患者に対する作業療法を実施した1症例
－ADL/IADL 時に息切れをする患者への動作指導と在宅酸素導入－
長崎記念病院 植木 光
- IV-2 離床活動が自発的な他患交流へと繋がった1症例
池田病院 リハビリテーション科 吉田 妃未来
- IV-3 傾聴による信頼関係構築が意欲・活動性向上に繋がった終末期の1症例
諫早総合病院 リハビリテーション部 縞田 千咲

3月10日(日)

一般演題 V 「高次脳機能障害」

10:10~10:50

座長：生田 敏明（長崎リハビリテーション病院）

- V-1 アテローム血栓性脳梗塞を呈した患者へのトイレ動作定着に向けたアプローチ
－動画や視覚情報を用いた介入方法－

池田病院 リハビリテーション部 福田 莉奈

- V-2 積極性を高め更衣動作拒否から自立に ー失語による混乱と,防衛・適応の障害受容を経てー

長崎北病院 西 彩音

- V-3 高次脳機能障害を呈した症例に対し退院前訪問を通して自宅退院へと繋がった一症例

耀光リハビリテーション病院 リハビリテーション部 岡田 栞里

- V-4 当該地域における自動車運転支援体制の強化とシステム構築の重要性

ー左半側空間無視を呈した症例の自動車運転再開支援の経験からー

JCHO 諫早総合病院 下濱 太陽

一般演題 VI 「MTDLP」

10:50~11:20

座長：内野 保則（佐世保国際通り病院）

- VI-1 あんたが私をやる気にさせてくれたよ

ーしたい作業活動の再構築による心理的变化についてー

長崎北病院 総合リハビリテーション部 高尾 愛梨

- VI-2 上肢装具を段階的に使用し動作を再教育することで食事を自力摂取可能になった症例

和仁会病院 志方 友香

- VI-3 MTDLP の活用がもたらした交流と心理的安心感 ー患者の思いに寄り添ってー

井上病院 リハビリテーション科 朝永 耕平

一般演題 VII 「脳血管疾患 1」

11:30~12:10

座長：原 修平（宮崎病院）

- VII-1 注意障害を呈した症例に対する自己教示法を用いた関わり

ー排泄場面における下衣操作獲得に向けてー

長崎リハビリテーション病院 原田 銀次朗

- VII-2 右前頭葉膠芽腫患者の急性期作業療法 ー経過中状態に応じた3期の介入ー

長崎大学病院 山下 真生

- VII-3 訪問リハビリテーションにて注意障害に対する目標指向型訓練を行った一症例

長崎北病院 総合リハビリテーション部 佐藤 結希

- VII-4 自宅復帰後に抑うつ状態を呈した事例へのOT対応と役割

松岡病院 山口亜香音

- VIII-1 施設退院後の学習性不使用を回避する為、活動日記を用いて
麻痺手の使用を促した脳卒中片麻痺の一症例
長崎記念病院 リハビリテーション部 廣田 光夏
- VIII-2 トイレ動作自立に向けて -目標の細分化と共有-
池田病院 リハビリテーション部 山口 琴美
- VIII-3 急性期脳卒中患者に上肢機能改善を目的としたメンタルプラクティスの実践
十善会病院 リハビリテーション科 貞方 拓郎